

全国青年大集会2013ニュース

発行：全国青年大集会 2013 岡山県実行委員会

仲間の大切さ実感

大雨の中
1500人



岡山からの参加メンバー。
←笑顔で雨も吹き飛ばす！

10月20日に開かれた全国青年大集会は、どしゃぶりの雨の中でも岡山から13人、全国から1500人の青年が集まり、まともな仕事と人間らしい生活を求めて声をあげました。

「会社で不正を告発していたころ、私の声なんて誰も聞いてくれなかった。でも今は耳を傾けてくださるみなさんがいる。あなたにも必ず仲間がいる。みんなで、おかしいことにはおかしいと声をあげましょう」(秋田書店社員)「女性は『鮮度』が切れたらもういらない」と考えている会社だったことに悲しくなった。誰にも知られることなく、ここで私が黙ってしまうことは絶対あってはならないと思った。」(カフェベローチェ店員)など、ひどい働き方、高学費や消費税増税、原発の推進に対し、あきらめずに声をあげている青年の発言が相次ぎ、参加

者に感動をよびました。

岡山県では、民青同盟県委員会と県労会議青年部のメンバーで集会に向けての実行委員会を立ち上げ、集会参加の呼びかけや、「おごと生活実態アンケート」にとりくみました。

アンケートでは、「人手が足りない」や「賃金が安い」が多く選ばれていました。街頭でも青年の声を聞く宣伝をし、「兄が上司から退職強要のパワハラを受けていた」「タイムカードが30分刻みで押されるようになっていて、ただ働きがある」などの声を聞きました。

青年大集会の翌日に行われた、省庁国会要請行動では、厚労省や文科省、経産省と国会議員へ各分野の要望を届けました。岡山県からも1人参加し、厚労省へ宣伝で聞いた青年の実態を伝え、改善するための政策の実現を求めました。

ご協力ありがとうございます！

全国青年大集会 2013 へのとりくみにあたり、アンケートや派遣費用のカンパなど、ご協力いただき心よりお礼申し上げます。集会に参加した青年一人ひとりが、感じたことを日頃の活動に活かし、運動を前に進める力にしていけるためにがんばります。今後とも、ご協力よろしくお願いたします。

参加者の感想

秋田書店と裁判で闘っている女性の訴えに胸を強く打ちました。

職場で違法を強要され、反発したところパワハラを受け、ところを病み、最後はラムネを食べるように薬を服用しながら頑張っていたけれども休職せざるを得なくなり、その間に違法行為の責任を被せられ解雇された、とのこと。

彼女のことは、「私の行動で励まされる人がいる、勇気を得る人がいる、そう思って闘っている、同じようにあなたの行動で励まされ、勇気を得る人がいる、共に頑張りましょう」にところが震えました。このことばに答えなければいけない、という思いを強く持ちました。勇気をもらいました。集会に参加できてよかったです。 K・U

分科会「TPPに入るとどうなるの？」では、農民連の青年などが「ブランド米をつくっているが、不安定雇用の世代が消費者の中心になった時が不安」「企業の都合で農作物の価格が乱高下しないよう、企業は農地を買えないことになっている。農村がコミュニティで管理して成り立っている農道や用水は、農家が減っては維持できない。農家が減って土地が水を吸わないことで、ゲリラ豪雨など異常気象がおこりやすくなっている」と、強いものや特化したものが生き残れば良いという農業にも日本にも未来はないことを訴えました。農業以外にも、医療従事者や鉄道会社社員からの「海外の安い労働力が安易に参入して、安全が守れるか不安」という声や、「農業高校出身だが、農業高校も減ってしまうのでは」「海外の銃産業の圧力で日本の銃規制が取り払われることにならないか」などの質問が続々と出され、本当に20年、30年先の日本で得をする人は誰もいない制度だと実感しました。 A・T

午前中の分科会では「ブラック企業に対抗するには労働組合が必要だ」に参加しました。

ロックアウト解雇や厳しい昇給条件で初任給のまま働き続けさらには初任給を下回った人、防犯カメラと称して社内の従業員が集まる場所にマイク付きのカメラを設置する会社など、なりふり構わない人件費削減と解雇の実態を聞く事が出来ました。

とくに裁判で闘う中で働き方を見つめなおし復職した人の「会社に言われるままに働くより、闘って自分の働く場所を変えていく人のほうが生き生きと働いている」という言葉が印象的でした。

午後からの全体会でも理不尽な解雇と闘っている人たちの話を聞き、知識を身につけて闘うためにも力を合わせて自分たちの権利を守るためにも労働組合が重要なのだと思いました。

天候のせいもあってアピールウォークが中止になり参加者も1,500人程でしたが、参加して良かったと思えました。 D・A



↑それぞれの思いを書いた紙を傘に貼ってアピール！
「こんな社会じゃ人も技術も育たない！」



↑集会アピール案を元気に読み上げる岡山の参加者

青年大集会に参加して、私が得た貴重な教訓は、「労働者の権利は企業から与えられるものではなく、労働者自身の自覚によって勝ち取っていくものである」です。

私は「ブラック企業」のブースに参加しました。相当な社会的地位のある企業の役員ですら、労働法令に反すること、道徳的に許されないことをすることは驚きました。地位に伴う品性がないことは、とても残念なことだと思います。

労働者に対する権利侵害に対抗するためには、「自分だけが我慢すれば丸く収まる」ではなく、労働者全体に対する連帯意識をもって、抗議することが大切だと考えています。そのためにも、仲間を作り互助の精神を持って労働者の生活を向上させていきたいと思いません。

Y・S

私は今まで、民医連主催の集会には何度か参加させていただいたことはあったのですが、医療の集団を飛び越えた集まりには参加したことがありませんでした。

今回初めて団体、職種関係なしに若い人たちだけで作り上げる集会を経験し、若い皆さんがどんな気持ちで社会と向かい合っているのか、生の意見を直接聞くことができ、とても新鮮な体験ができました。普段思っている口に出せない気持ち、うまく表現しにくい社会へのもやもやなどを皆さんが言ってくれているような気がして、心がスッとしたような気持ちです。今後もこのような集会があったら是非、積極的に参加していきたいです。

M・S

神奈川の最賃裁判劇の分科会に参加しました。

劇中に二人の原告のかたの陳述要旨がそのまま使われていました。毎月ギリギリの生活で、冠婚葬祭に出席できない。新しい服が買えない。子どもが進学をあきらめた。など生々しい生活実態に涙が出そうになりました。憲法で保証されている健康で文化的な生活ってどんな生活だろうか？おしゃれをしたい、好きな大学に行きたいという思いは贅沢なことなのか？といういろいろ考えさせられました。

N・N

今回、青年大集会に初めて参加しました。分科会は、TPPのことについて。大雨で聞き取りにくいところもありましたが、TPPと日本の医療の関係、農業のことについて、詳しく知ることができました。今まで国民が守ってきたルールをもう一度確認して、そのルールを犯されないようにするために行動していくことが大切であると感じました。

また昼からの訴えを聞いて、おかしいと感じることを仕方ないこととして諦めるのではなく、声をあげていくことの大切さも感じました。

正しいことを周りに伝え、今の自分には何ができるのかを考えるきっかけをもらった集会となりました。

M・T

どしゃぶりの大雨が降る中での青年大集会の翌日に、省庁国会要請行動に参加しました。今回は厚生労働省への要請行動に参加し、岡山で聞いてきた労働者の実態を話し、政府が「成長戦略」の名で進めようとしている低賃金・不安定雇用の拡大や裁量労働制の要件緩和などに対し、若者の深刻な実態の解決のために、政策の大転換を求めました。

対応した厚労省の担当者は、「〇〇課の係員」という、自分たちと同じような若い人たちばかりでした。今、問題になっている「限定性社員」について、こちらから「首切りがされやすく制度だ」と指摘したのに対し、返ってきたのは「あくまでも労使間の話し合いによるということが基本であって、正当な理由のない解雇は認められないのは変わらない」という言葉でした。しかし実際は、「代わりはいくらでもいる」というように、圧倒的に使用者側が強い立場にあるということが全く無視されているようでした。

また、「企業の生産性をいかに上げるか」ということを厚労省側が口にしていただけにも腹が立ちました。労働者の権利を守るのが厚労省の役割のはずです。

青年の声を国の政策に反映させるためには、もっと社会的にアピールして、多くの青年がそれに共感する状況をつくっていかねばいけないと思いました。そのためにも、この運動に立ち上がる人を増やしていきたいです。

Y・Y

今回は雨が振り、出足が鈍いかったように感じました。ニュースでしか見たことのないような問題について触れることができ、見識が広がりました。

前回（4500人）と比べて1500人という人数が気になりました。ブラック企業などの社会問題があるにもかかわらず減少していることに、違和感を感じました。それは、甘えから来るものなのか、諦めから来るものなのか。検証する必要があるのではないのでしょうか。

K・M

青年大集会の分科会は最低賃金についてのものに行きました。そこで、実際に行われている裁判の劇を見ました。

原告側は、生活が苦しい実態を、国側は最低賃金は審議会が決めたもので、国に責任はないと主張。企業の代表を呼んで、下請けは苦しい経営だから賃金引き上げは出来ないともしました。

自分は法律違反がないとかじゃなくて、現実に人間らしい生活ができない人がいるのだから、それについて国が責任を果たすのがいいと思います。

秋田書店を不当解雇された人や、店長より年上のアルバイトは使い辛いとクビになった人の話や、全国の青年たちのアピールを聞きました。本当にひどい労働実態なんだなと思いました。こんなにたくさん労働問題でがんばっている人がいるのかと驚きました。

K・S

青年大集会に参加して、参加しようと思ったきっかけは、全国の若い人たちが頑張っている姿を見て、自分も頑張ろうと思えるからです。

TPPの分科会に参加して、自分は病院で調理の仕事をして、そこで働いている栄養士の人や調理している人、みんなが安全な食材で美味しい食事を提供したいって常に創意工夫してる中で、外国から遺伝子組換えの食物が安いからって輸入するようになれば、患者さんに自信をもって食事を提供できなくなるかと改めて実感しました。

食べるって事は単純だけど、突き詰めたら凄く深い事だと思うので、頑張ってTPPの参加に反対の運動を頑張ってお金の安全を守りたいです。

J・M

印象に残ったのは、秋田書店で不正を告発し、懲戒解雇された女性とベローチェで「鮮度が切れた」と契約を切られた女性の発言です。

どちらもニュースでは知っていましたが、私と同じ年くらいの女性が、人間性を否定されるような言葉を言われて仕事を奪われた、と発言してたのを聞いて、とても衝撃を受け、そして許せない気持ちでいっぱいになりました。

雨のため、いつもより参加者が少なくパレードが中止になったのは残念でした。しかし、大会最後にステージでアピールとシュプレヒコールをさせていただいたのですが、反響のすごさに、私が元気をもらいました。さすが青年大集会だな、と(笑)

初参加の人も「楽しかった」「また誘って」と言ってくれてうれしかったです。

もっと岡山県も青年大集会参加者を増やすことが今後の課題なので、岡山青年大集会や次回の全国青年大集会に向けて取り組んでいきたいです。

A・N

今回、青年大集会に参加して感じたものは「岡山医療生協は恵まれている」ということです。自分はブラック企業の講演会に参加したのですが、あまりに酷い労働状況にそんな冗談みたいな規則の企業がいくつも存在するとは驚きでした。

ナノテックの職場内に監視カメラをつけるなど完全に人権を侵害していることが平然と行われていると聞き戦慄しました。職場の皆さんに話したところ、そんなことされたら医事課はおしゃべり多いからすぐにクビになっちゃうねと言われました。

講演で現在ブラック企業の訴訟中の弁護士の方の話もありました。その話では労働組合なら何でも良いという訳ではないということを知りました。給料の引き上げをさせるからその3割を組合に渡すよう言ってくるころがあると聞き、呆れ返りました。

新人職員研修で医療生協や医労連について学んでおり社会保障に恵まれていることは大体知っていましたが、比較対象である他の企業の状態を知らなかったのどれほど恵まれているのかを理解できていませんでした。

他企業の労働条件を聞いて、実際にブラック企業が存在していることを知ることが出来ました。ざあざあ降りの雨と強風の中で凍えるようでしたが、参加してよかったです。

S・N